

2008年度「授業改善に向けたアンケート」集計結果報告

2009年3月4日

成城大学FD委員会

はじめに

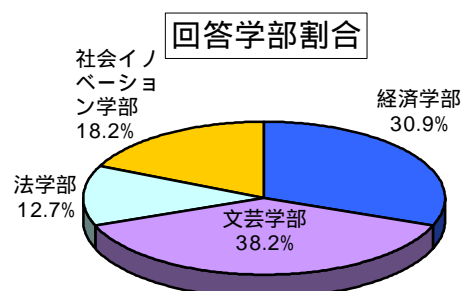
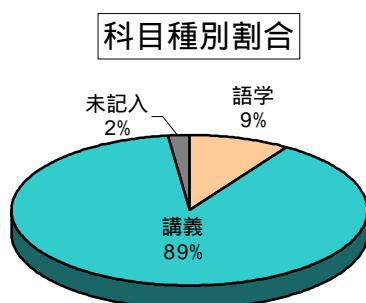
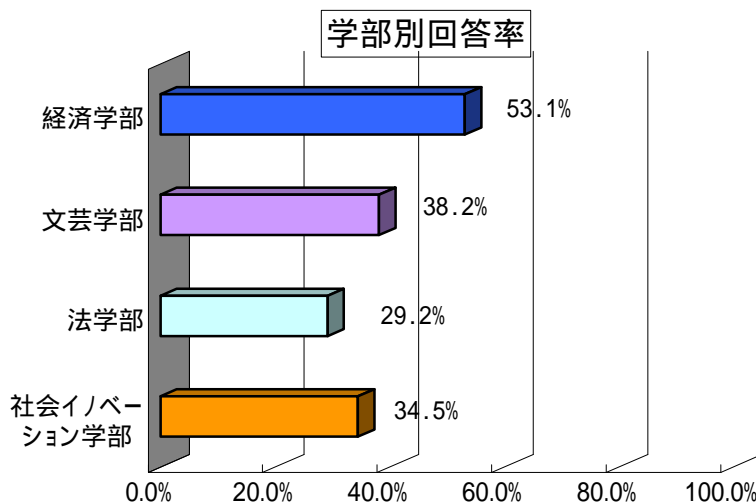
「大学設置基準」ならびに「大学院設置基準」の改正により、教育力向上のための取り組みとして、FD(ファカルティ・ディベロップメント)活動(1)が義務付けられました。これを受けて平成20年2月に「成城大学FD委員会」が設置され、活動の第一歩として大学専任教員を対象に「授業改善に向けたアンケート」を実施いたしましたので、以下のとおり集計結果をご報告いたします。

当該集計結果を踏まえ、今後の授業改善策を構築し、実施、検証を行い、これを繰り返し改善を重ねていくことで、真に意味のあるFD活動を展開していきたいと思っております。

1 FD ファカルティ・ディベロップメントの略 大学教員の教育能力、資質の向上のための組織的取り組みのこと。

アンケートの概要

- (1) 調査対象 専任教員 140名
- (2) 調査期間 2008年11月26日～12月12日
- (3) 有効回答者数 55名(経済17名、文芸21名、法7名、社会イノベーション10名)

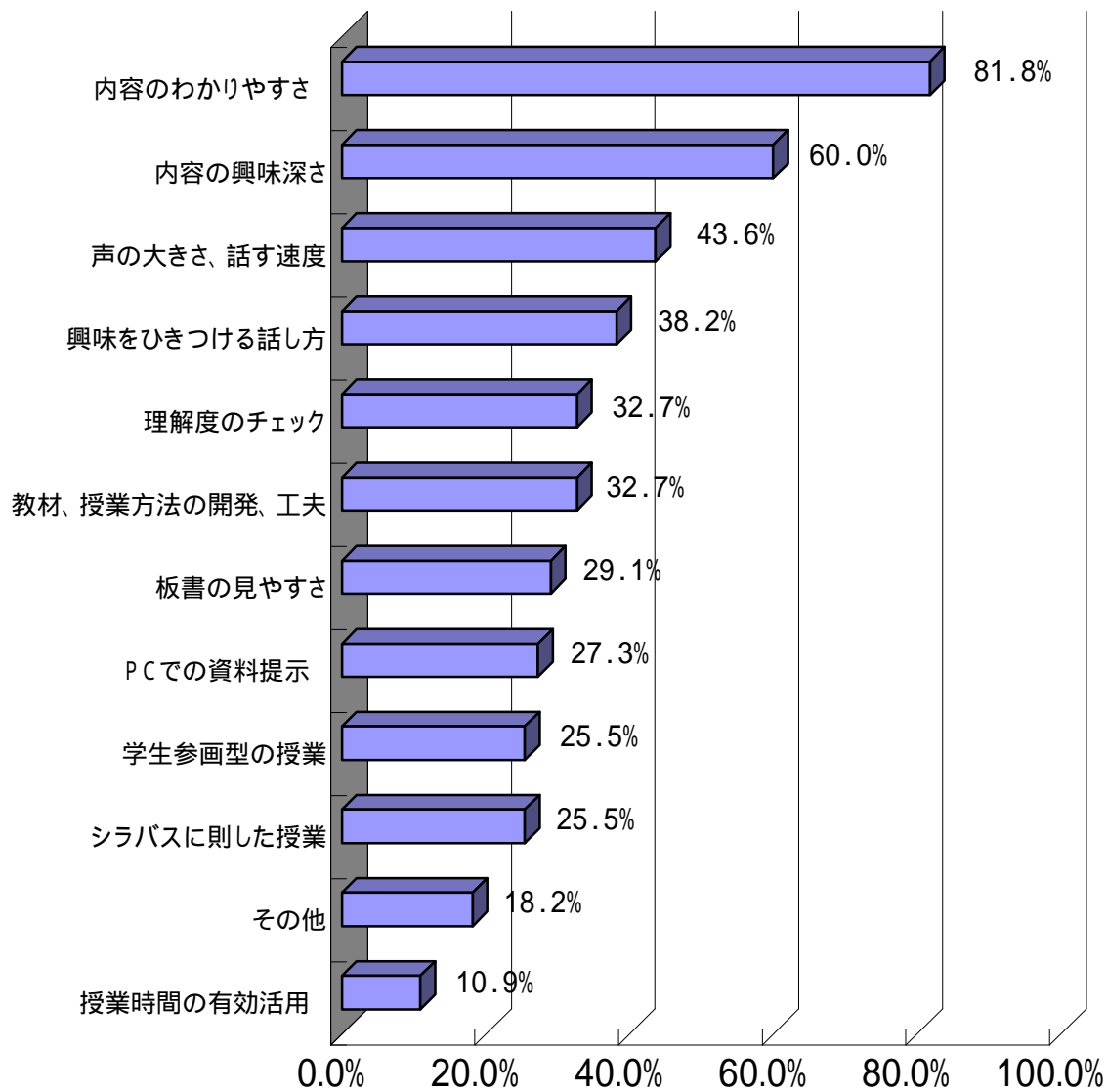


. 教員が授業で心がけていること

授業で心がけていること / 「内容のわかりやすさ」が最多

「内容のわかりやすさ」が45件で81.8%、次いで「内容の興味深さ」が33件で60.0%、「声の大きさ、話す速度」が24件で43.6%の順となった。

図4 「授業で心がけていること」の項目別回答
(有効回答者数55名に対する割合)

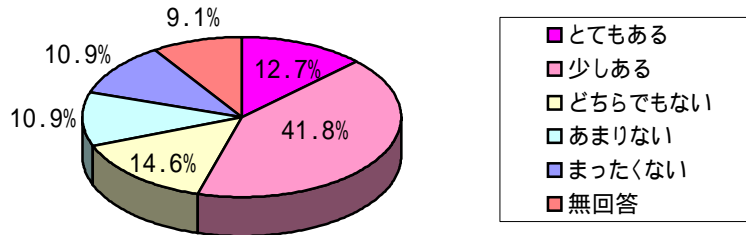


. FD活動

FD活動への関心 / 「関心ある」が55%

「とてもある」「少しある」が30件で、回答者の54.5%がFD活動に関心を持っていることが確認された。

図5 「FD活動」への関心についての項目別回答
(有効回答者数55名に対する割合)



どのようなFD活動をすべきか / 授業評価アンケート、授業改善ワークショップ

「学生による授業評価アンケートの実施」が28件で50.9%、次いで「授業方法改善のためのワークショップ」が18件で32.7%、「FD取組事例集の作成と公表」が14件で25.5%、「科目ごとの授業評価アンケート結果の学内での開示および分析」が13件で23.6%の順となった。

図6 「どのようなFD活動をすべきか」の項目別回答
(有効回答者数55名に対する割合)

